



しらやま

白山小学校だより No.36

令和2年1月27日



もうすぐ「立春」



もうすぐ「立春」を迎えます。今年の「立春」は2月4日で、1年で最も昼の短い日である冬至と、昼と夜の長さが同じ日である春分の中間にあたります。立春と聞いただけで春の始まりを感じるので、なんだかワクワクしますね。「立春」の他に季節の変わり目には「立夏」「立秋」「立冬」とありますが、もともとはそれぞれ前日を「節分」と言っていました。しかし、今では豆まきの風習がある「立春」の前日の2月3日だけが「節分」として現在に残っています。また、旧暦では1年ののはじまりは立春からと考えられていたために、八十八夜や二百十日などのように立春から数えた節目の日が存在しています。

「八十八夜」(今年は5月1日)

立春から88日目。「せっせっせーのよいよいよい」で始まる茶摘み歌でよく知られていますね。この日に摘んだ茶の葉は品質がよいと言われています。また農家にとってはとても大事な日で、稲の苗代(苗を作る場所)を作ったり、作物の種まきをしました。

「二百十日」(今年は8月31日)

立春から210日目。この時期は春に植えた稲が大きく実をつける一方で、台風が多いとされることから農作業に関わる人にとっては厄日とされてきました。

節分といえば豆まきですが、ご家庭でも豆まきをされているところもおありかと思えます。季節の変わり目には邪気(悪い気)が生ずると考えられており、その邪気を追い払うために、豆をまくということだそうです。最近では、恵方巻きを食べて福招きをされている方も多いのではないのでしょうか。(今年の恵方は「西南西」です。正確には「西南西のやや西」)1年無事に過ごせますようにという願いを込めて、「鬼は外、福は内」!

1年生が昔遊びをしました!

22日(水)の2校時と3校時に昔遊びをしました。児童のおじいちゃんやおばあちゃんを先生にお迎えし行いました。あやとり、お手玉、おはじき、こま回し、けん玉など様々な遊びを教えてくださいました。最初はなかなかうまくできなかった遊びも、やり方を教えていただいたおかげで、少しずつコツをつかんでできるようになりました。貴重な体験ができて、子どもたちも大喜びでした。



研究授業が行われました!

24日(金)に、1年生担任の八本木教諭が「二わのことり」という資料を使って道徳の授業を行いました。小鳥たちがやまがらの誕生日に招かれるのですが、みんなうぐいすの家である音楽会の練習に行ってしまう中、みそさざいはどうしてもやまがらのことが気になり、一人やまがらの家に行き誕生日を祝うという話です。みそさざいがやまがらの家に行ったことを通して、友達のよさや大切さに気づき、友情を深めていこうとする心情を育てることがねらいです。はじめにペープサートを使ったことで、みそさざいの行動と揺れ動く心情が捉えやすくなり、興味関心も高くなるのがわかりました。みそさざいとやまがら役になっての役割演技では登場人物の心情になりきり、中心発問ではどの子もねらいに迫ることができていたと思います。どの子も一生懸命に考え、自分の言葉で発表している姿に1年生の子たちの成長を感じることができました。少ない人数だからこそ、相手の立場になって考え、友だちと仲良くしようとする気持ちをこれからも大切にしていってほしいです。

